

RPPC メールマガジン 第 852 号

リサイクルポート推進協議会（令和 2 年 12 月 9 日）

■事務局からのお知らせ

事務局からのお知らせは特にありません。

■リサイクルポートに関連する最新の情報

1.那覇港、港湾計画改訂へ動き。年度内にあるべき姿まとめ。

那覇港の次期改訂港湾計画に向けた協議が進んでいる。沖縄県、那覇市、浦添市、那覇港管理組合の 4 者は、本年度中に民港としての那覇港の新しいあるべき姿をまとめることにしており、防衛省との協議も踏まえて、那覇港管理組合では令和 3 年度に地方港湾審議会開催など、改訂港湾計画策定に向けた作業を始める見通し。

那覇港の現行港湾計画は平成 20 年代後半を目標に策定されており、既に目標年次を超えている。このため那覇港管理組合では次期計画への対応として、平成 24 年度に那覇港長期構想検討委員会を立ち上げ、議論を進めて来ている。

新しい検討では那覇港管理組合が物流面、また浦添市が西海岸地区の新たなコースタルリゾート構想を示すことになっており、港湾計画に反映する。今後は防衛省の軍港施設の配置案も踏まえ、最終の擦り合わせへと進むことになる。那覇港管理組合が内外貿ユニットロードターミナルなどの物流施設の配置を、また浦添市が世界標準のホテルなど、リゾート観光施設の提案が見込まれており、新しい港湾計画に反映する。

-----  
2.港湾局、港湾で次世代エネ利活用を。カーボンニュートラルポート形成

国土交通省港湾局は、菅内閣総理大臣が 10 月 26 日の所信表明演説で、2050 年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにするカーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指すことを宣言したことや、水素の利活用拡大などの世界的な動向も踏まえ、国際的なコンテナ・バルク港湾で「(仮称)カーボンニュートラルポート(CNP)」の形成に向けた取組みを推進する方針。

海陸の国際物流の結節点であり産業拠点ともなる港湾で、次世代エネルギー(水素・アンモニア等)の利活用等に向け、水素ステーション整備や港湾荷役機械やトラック輸送等への燃料電池導入、洋上風力発電由来等の水素ネットワーク構築など、関連技術の実証・実装を進めるとともに、次世代エネ輸出入・配送拠点となる港湾施設の整備、次世代エネ活用型産

業の立地促進等も行い、脱炭素化の観点に着目した港湾機能の高度化を促進していきたい考え。

-----  
3.中城湾港の東ふ頭水深 12m岸壁要望。次期港湾計画改訂も作業

中城湾港は新港地区への産業集積が続いており、沖縄県では東ふ頭の水深 12mの新たな岸壁整備などについて令和 3 年度新規事業として国に要望している。港湾機能が整うことで、中城湾港国際物流拠点機能が益々高まる。

中城湾港背後は物流機能用地として企業集積が進んでおり、港湾の役割も高まっている。東ふ頭地区では R O R O 船の定期就航が期待されているほか、ふ頭背後にはバイオマス発電所の建設が進むなど国際物流拠点としての役割が増し、港湾機能の充実が求められている。また中城湾港は平成 14 年に現行の計画に改訂されており、改訂時期を迎えている。今年 9 月に第 1 回長期構想検討委員会が開催されており、年度内に概ね 20 年～30 年先を見据えた長期控構想を策定し令和 3 年度に港湾計画を改訂する予定。

港湾空港タイムス 12 月 07 日号から編集

////////////////////////////////////

発行者：RPPC 広報部会

部会長：新谷 聡 りんかい日産建設（株）

部会員：山田 安彦 日本製鉄（株）

友歳 巖 五洋建設（株）

川田 延也 東京都

齋藤 憲雄 山形県リサイクルポート情報センター

リサイクルポート推進協議会 事務局

一般財団法人みなと総合研究財団（内） 担当：押田、清水、安田

URL: <http://www.rppc.jp/> E-mail: [rppc\\_jimukyoku@wave.or.jp](mailto:rppc_jimukyoku@wave.or.jp)

////////////////////////////////////

■会員主催や会員に関係した催し物（セミナーなど）の情報がありましたらご連絡ください。開催案内等の情報をメルマガで配信致します。

■メルマガ配信先に変更がある場合、事務局までご連絡ください。

■メルマガに関するご意見、ご要望がありましたらご連絡ください